



所内 第12回 写真コンクール入選作「褶曲」 鉱床部 石原舜三

褶 曲

次の冬期オリンピック大会の開かれるグルノーブルを立つたのは 1964年9月上旬であった。この町はすでにオリンピックの旗で飾られていた。4年もあるのに気の早いことだと思った。マルセユの友人を訪ねてデュフューネ・アルプスの山中を一路南下する。

聞きおよんでいたとおり道は悪く 60kmも出せない。山地を越えてタラルの近くで左手にみごとな露頭が目についた。岩質は全体に不純物の多い石灰岩だったと記憶しているが確かでない。とくに多い所が軟かく けずられてくぼみ 写真にみるような荒肌になったものと思われる。

このフランス東部からスイス オーストリアのチロルにかけて 石灰岩はしばしば浸食からとり残されていた。多くの場合に水平でメサ地形を示すか やや傾むきケスタ地形となっていた。このように急傾斜で塀のようになることは珍しく 写真をとったことを覚えている。

～地質調査所の出版物～

・地質調査所 月報 第17巻 第4号

報 文

- 岸和男・菅野敏夫・後藤準次：松本盆地北部の地下水
- 村下敏夫・菅野敏夫・村上篁：長崎県郡川扇状地の地下水
- 石山尙珍：東京近海の現棲種貝類の調査

概 報

徳島県横山・東条地区合銅硫化鉄鉱調査（春城）

資 料

日本海底における2カ所の孢子—花粉分析（小岩井訳）

講 演 要 旨

- 青森県津軽半島における層序構造に関する2, 3の間題点について（藤井）
- 岩手県九戸郡山飛村付近の古生層、
- とくにマンガン鉱床との関係について—（吉井）

・お 知 ら せ

地質調査所応用地質部の組織の一部が 昭和41年4月1日付で次のとおり改正になりました

- 応用地質部—水資源課（課長 小西 泰次郎）
（部長 蔵田延男）（水資源としての河川および地下水などの調査研究）
- 産業地質課（新設）（課長 尾原 信彦）
（産業開発に必要な地質の調査研究）
- 環境地質課（新設）（課長 中村 久由）
（防災地質・温泉地質など生活環境に関連の高い地質の調査研究）

地質ニュース	第141号	5月号
昭和41年5月25日	定価 220円	発行 (© 1966)
編集	工業技術院	地質調査所
発行人	林 久	雄
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段4の11	
	Tel. (261) 7173・9387	
	振替口座東京32466	
総発売元	政府刊行物販売所	
	東京都千代田区大手町1の5	
	Tel. (261) 5570	
印刷所	共同印刷株式会社	